

## トマト（夏秋被覆栽培）の病害虫の発生状況（8月中下旬）

### 1 灰色かび病

巡回調査における発生ほ場割合は平年並でした（図1）。果実での発生も確認されています。8月中旬の豪雨により多湿条件が続き、発病程度の高いほ場が見られました。過繁茂などで多湿条件になると発生しやすくなるので、換気を十分に行うとともに、発病葉は摘除し、ほ場外で処分してください。

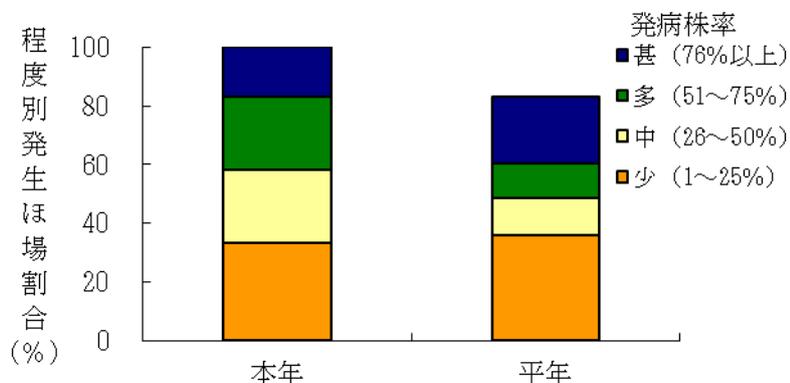


図1 灰色かび病の発生状況

### 2 葉かび病

巡回調査における発生ほ場割合は平年並でした（図2）。多湿条件により発生しやすくなるので、換気を十分に行ってください。葉かび病抵抗性品種もありますが、これらの品種を侵す菌のレースやすすかび病の場合は発病します。抵抗性品種を作付けしているほ場でも発病が見られた場合には、葉かび病かすすかび病かを確認し、適切な薬剤を選択して防除してください。

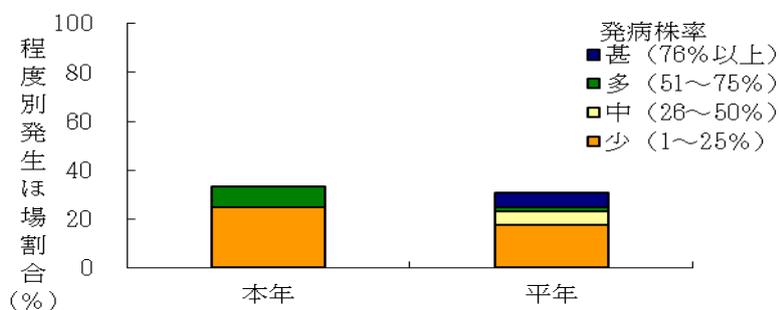


図2 葉かび病の発生状況

### 3 アブラムシ類

巡回調査における発生ほ場割合平年並でした（図3）。ほ場をよく観察し、発生が多くなった場合には、速やかに防除を実施してください。また、アブラムシ類はウイルス病を媒介するので注意が必要です。

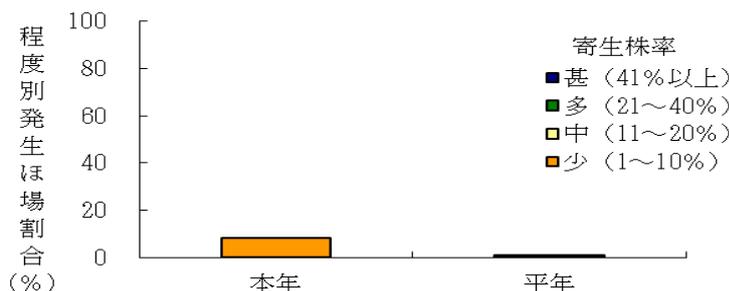


図3 アブラムシ類の発生状況

#### 4 コナジラミ類

巡回調査における発生ほ場割合は平年よりやや少ない状況でした（図4）。県内における主な寄生種は、オンシツコナジラミですが、寄生種がタバココナジラミの場合は、着色異常果の発生やトマト黄化葉巻病（TYLCV）を媒介するので、注意してください（病害虫防除所 HP に掲載している病害虫防除情報「注意喚起 黄化葉巻病（TYLCV）のまん延防止対策」、病害虫ライブラリー野菜花き類「コナジラミ類」をご覧ください）。両種ともまん延すると防除が困難なので、低密度時から防除を実施してください。

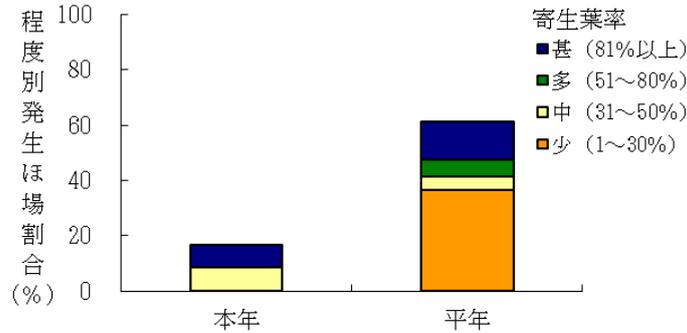


図4 コナジラミ類の発生状況

#### 5 アザミウマ類

巡回調査において発生は確認されませんでした（図5）。防虫ネットの設置が定着していますが、ほ場をよく観察し、発生が多い場合は、速やかに防除を実施してください。また、アザミウマ類は、TSWVなどのウイルス病を媒介するので注意が必要です。

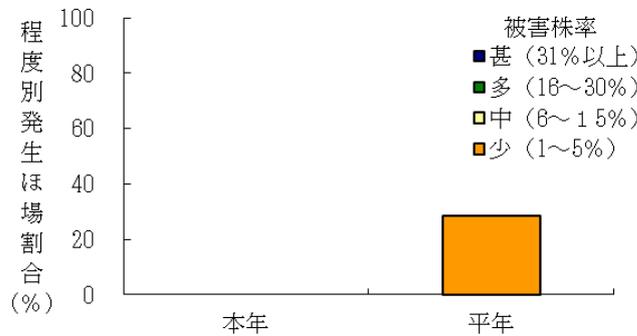


図5 アザミウマ類による被害果実の発生状況

#### 6 ハモグリバエ類

巡回調査ではやや少ない状況でした（図6）。まん延すると防除が困難となるので、発生が見られる場合には、低密度時から防除を実施してください。

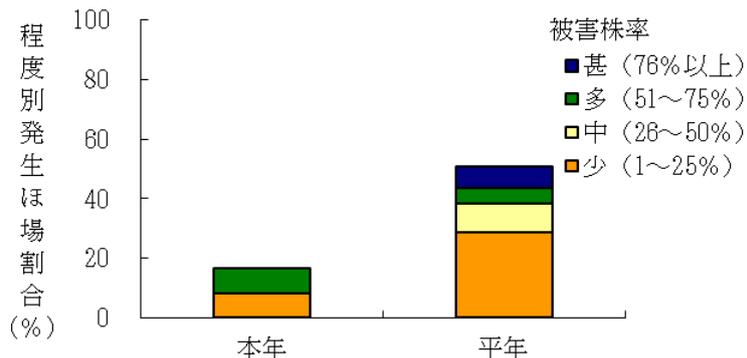


図6 ハモグリバエ類の発生状況

## 7 オオタバコガ

巡回調査において、被害果が確認されています（図7）。フェロモントラップ調査では、会津と浜通り北部で誘殺数が多くなっています。ほ場をよく観察し、発生が見られた場合には防除を実施してください。

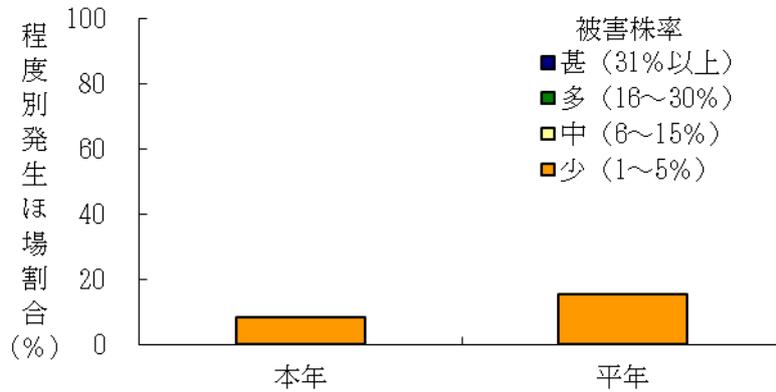


図7 オオタバコガの発生状況

## 8 すすかび病

巡回調査における発生ほ場割合は、過去8年間の平均と比較すると例年並でした（図8）。多湿条件になると、発生しやすくなるため換気を十分に行ってください。葉かび病よりも高温期に発生が見られます。発生が見られた場合には、適切な薬剤を選択して防除してください。

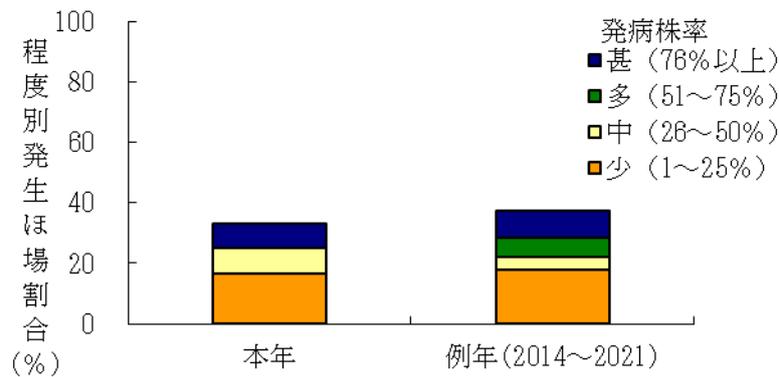


図8 すすかび病の発生状況

## 注意が必要な病害虫

### ■ トマトかいよう病

本年もほ場での発生が確認されています。本病は種子や土壌中の残渣に生存している病原細菌が一次伝染源となり、その後、芽かきや収穫、誘引などの管理作業による二次伝染により被害拡大します。発病が疑われる株は管理作業を後回しにし、作業手袋やハサミ等をこまめに消毒し、被害拡大を防ぐようにしてください。万が一、ほ場で発生した場合は、発病株を速やかに抜き取り、ほ場外に持ち出し適切に処分してください。

● 情報内容への質問や要望は、福島県病害虫防除所までご連絡ください。